

海と松

有明の松並木を復興、
日本有数の松原へ。

荒尾市 蔵満老人クラブ

荒尾市の有明海岸松並木が、社団法人・日本の緑を守る会（稲山嘉寛会長）による「日本の白砂青松百選」に選ばれました。この受

り組みました。ゴミを拾い、苗を補植し、下草を刈る。クラブの人たちの手弁当による地道な活動は着実に効果を上げ、今では、一・五キロメートルに、この十年に植えた松六百五十本を含む八百本が茂り、濃い緑の緑が蘇りました。安田会長は、



「行政主導でなく、地域住民の保護運動が認められたことに意義があります。老人だつて人の為になるんです。ゲートボールも温泉もカラオケもいいてしょう。でもそれだけじゃ

きれいなふる里

賞を一番喜んでるのは松並木を守り育ててきた蔵満老人クラブ（安田久好会長、百五十人）の皆さんたちです。

この松原は加藤清正が植えた松にはじまるといわれ、永い間防風防潮林の役目を果たしてきました。ところが戦後、海岸に提防がで

きると、人々から忘れられ、気づいた時には歯の欠けたクシのようになつていたそうです。

同クラブでは、昭和五十一年に県郷土修景美化地域に指定されたのを機に、松原の復興に取



いかん。世の中の役に立っているんだ」という自負が生きがいにつながると思っています。最近では地区の人たちの協力も多く、これを機会に一層松並木の美化に努めたいと、クラブ員一同はりきっています。

と、三メートルにも育った松を見上げながら話してくれました。



いつまでも

読書の喜びを、

分かち合おう楽しみ。

向上の為の情報交換や利用者の声を聞く機会ができ、お互いによい

熊本県点訳朗読友の会

熊本市長領町の熊本県点字図書館。書架にずらりと並ぶ点訳本と朗読テープ。その数現在三万九千余り。その半分以上はボランティアの手で作られたものだそうです。

刺激になっていきます。」と話すのは友の会代表世話人で点訳ボランティアの高瀬邦男さんです。「点訳を始めてから、自分がいかに字を知らんかということを知りました。六十過ぎてから辞書を引こうとは思わなかった。」と笑われます。

「熊本県点訳朗読友の会」は、これまで個人や小さなグループで活動していたボランティア同志の横のつながりを図る為、昨年七月に発足しました。会員は県下各地に百五十七人。点訳も朗読も、一人で辞書片手の地味な作業のうえ、文節の切り方や漢字の読み方、発音やアクセントなど専門的な技術も要求されるとあって、活動を続けるには思った以上に大きなエネルギーが必要とす。点字図書館では毎年、ボランティア養成の講習会を行っています。実際に一人立ちして活動を続ける人はほんの数名だけか。

「友の会ができたおかげで、技術



テ ン ヤ ク ヲ ハ ジ メ テ カ ラ
ジ ブ ン ガ イ カ ニ
ジ ヲ シ ラ ン カ ト
イ ウ コ ト ヲ シ リ マ シ タ。

点字(凸面から)